

## 水前寺成趣園

熊本城の南東側にあるこの庭園は、1632年に肥後（熊本）藩主となった細川忠利（1586-1641）が作ったものです。1630年代には水前寺と茶屋をここに建てました。

水前寺成趣園は、阿蘇山の湧水を引いた池を中心とする回遊式庭園です。入口には明治時代（1868-1912）の石橋が2本架けられています。東側には、池の向こう側に、富士山をイメージした見事な左右対称の人工の山、築山があります。庭園の北側には、西南戦争で熊本市が焼失した翌年の1878年に建てられた出水神社があります。反乱軍は攻撃で、このミニチュアの富士山に砲兵隊を配置したのではないかとされています。この松の木は、細川家の初代藩主、忠利が栽培した盆栽から成長したと言われています。少し進むと、朱色の門の先に稲荷神社があります。五穀豊穡の神を祀る稲荷神社のすぐそばには、春先に花を咲かせる4本の梅の木立があります。

### 流滴馬と栽培された花々

庭園の東端に沿って、砂利を敷き詰めた一本道が続いています。ここでは出水神社の春祭りや夏祭りの一環として、1878年の神社創建以来、流滴馬が行われてきました。細川家は、現在では武術というよりも宗教的な儀式となっている武田流流滴馬を代表していました。通り沿いには、伝統的な肥後六花のうち、肥後椿、肥後山茶花、肥後芍薬、肥後菊、肥後菖蒲の5つの花が植えられています。さらに、通りの南側の小さな区画には細川流盆石（白砂、小石、岩を黒漆の盆に並べて有名な景色をミニチュアで再現したもの）があり、伝統とは一線を画した面白い展示となっています。

### 松明の明かりに照らされた能楽堂

庭園の南端には能楽堂へと続く4つの桜並木があります。藩祖であり忠利の祖父である細川藤孝（1534-1610）は、能楽師として活躍し、細川家は皆、能を熱心に支持していました。1878年の建築当時の能楽堂は、1965年に焼失しました。現在の能楽堂は、1878年に建てられたものを1986年にこの場所に移築したものです。熊本の南に位置する藩であり、八代城主であった松井家が所有していました。夏には松明の明かりの中で夜能が上演されます。

庭園の西端には、築400年の茅葺き屋根の建物「古今伝授の間」があります。緑茶を飲みながら池を一望し、庭園全体の眺めを楽しむことができます。